

令和4年(2022年)10月28日  
 長野県建設部建設政策課技術管理室  
 坂口 一俊(室長) 山口 剛(担当)  
 電話:026-235-7323(直通)内線3344  
 E-mail:gijukan-kijunshido@pref.nagano.lg.jp

## 国の事業研究発表会に応募した6名全員が受賞しました

建設部では、社会資本整備・維持管理に携わる職員の技術力向上と公共事業執行の効率化を目的とした様々な取組の一つとして、建設技術の研究成果や日頃の業務の創意工夫等に関する技術発表会(長野県スキルアップセミナー)を年1回開催しています。

セミナーの中で特に優れている課題について、国主催の事業研究発表会で建設部職員6名が発表した結果、全員が受賞しました。

### 令和4年の取組と結果

#### 《長野県スキルアップセミナー》

(参加機関) 環境・農政・林務・建設部、企業局等、市町村、関係団体

テーマ	防 災	維持管理	活 力	環 境	イノベーション・DX	アカウンタビリティ	行政マネジメント	合計
発表数	4	2	3	2	6	1	3	21

(受賞者) 優秀賞 4名、特別賞 2名 (建設部4名、林務部2名)

建設部職員6名  
 (4名は県セミナー受賞者)  
 を推薦

国土交通省地方整備局  
 事業研究発表会  
 6名受賞

# 1 研究発表会の開催状況

## 【長野県スキルアップセミナー】

日 程：令和4年1月20日  
 発表課題：21題（建設14、環境2、農政2、林務3）  
 審査員：審査委員長 建設部長、庁内審査委員 4名  
 外部審査委員（株）日経BPシニアエディター、長野高専名誉教授

## 【国土交通省事業研究発表会】

国交省職員や自治体、関係団体等の職員の業務に関する技術の向上、アカウントビリティを果たすために必要な能力の向上及び業務推進に対する研究、創意工夫等の推進を目的として毎年各地方整備局において開催されており、建設部では、スキルアップセミナー発表課題の中から優れた者をそれぞれの発表会に派遣している。

### 関東地方整備局

スキルアップセミナー R4.6.23～6.24 8部門 全98題  
 賞 ①優秀賞19題 ②審査員特別賞6題

### 中部地方整備局

管内事業研究発表会 R4.9.5～9.13 5部門 全93題  
 賞 ①最優秀賞6題 ②優秀賞16題 ③審査員特別賞10題

### 北陸地方整備局

事業研究発表会 R4.9.13～9.14 5部門 全65題  
 賞 ①最優秀賞5題 ②優秀賞10題 ③特別奨励賞8題 ④技術協会特別賞3題

# 2 発表会の結果

## 【長野県スキルアップセミナー】

優秀賞4題（建設部3、林務部1）、特別賞2題（建設部1、林務部1）

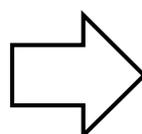
## 【国土交通省事業研究発表会】

令和4年度

整備局	賞	所属	氏名	発表題名
関東	審査員特別賞	砂防課	丸山 彩香	崩壊地におけるUAVレーザ測定の活用について ～横湯川流域の大規模土砂移動減少の把握～
中部	優秀賞	砂防課	佐藤 知闘社	地元へ寄り添った孤立集落の解消と生活確保について
中部	審査員特別賞	伊那建設事務所	林 直希	小規模道路築造工事におけるICT施工の事例
北陸	優秀賞	都市・まちづくり課	飯田 真子	住民目線・双方向で行う公共事業での戦略的広報 ～白馬村無電柱化事業のPR～
北陸	特別奨励賞	砂防課	柴田 俊	横湯川中流域での土砂災害対策に関する 施工方法の検討について
北陸	技術協会特別賞	技術管理室	太田 好宏	危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラを活用 した効果的な推移情報の発信についての取組

# 3 過去の受賞実績

	R3	R2	R1	H30
関東地方整備局	0	0	0	0
中部地方整備局	0	0	1	0
北陸地方整備局	1	0	1	0
計	1	0	2	0



令和4年は  
**応募者6名全員が受賞！**

# 発表課題の概要

## 崩壊地におけるUAVレーザ測量の活用について

砂防課 技師 丸山 彩香（関東）

横湯川における砂防工事は、現場までの工事用道路沿いの斜面が大規模崩壊地形を成している。著しい変状の拡大により一部斜面が崩壊し、横湯川への土砂流出が確認されたが、現地には立ち入る事ができず、全体の確認が不十分であったことから、UAVレーザ測量により状況を把握し、崩壊土砂量の推定を行い迅速な対応措置につなげた。

## 地元に寄り添った孤立集落の解消と生活確保について

砂防課 技師 佐藤 知嗣社（中部）

令和2年7月の梅雨前線豪雨の際に喬木村加々須地区で大規模な斜面崩落が発生し、県道が寸断され、高齢者の多い大島区民が孤立状態に陥った。発災直後から県・施工業者及び地元が一丸となって道路啓開し、仮道・仮橋を整備するとともに、地元に寄り添い、高齢者も運転しやすい迂回路の改良や、わかりやすい情報発信に努めた取組。

## 小規模道路築造工事における ICT 施工の事例

伊那建設事務所 技師 林 直希（中部）

建設工事現場での生産性及び品質向上を図るため、近年ではICT施工が導入されているが、小規模な道路築造工事での活用事例は少ないことから、小規模道路築造工事で実施したICT土工及びICT付帯構造物設置工を従来施工と比較検討し、優位性と今後の活用方法について述べた。

## 住民目線・双方向で行う公共事業での戦略的広報

都市・まちづくり課 主事 飯田 真子（北陸）

白馬村で進めている無電柱化事業の事業目的や工事内容について、地域住民や観光客等の理解を促進するため、若手事務職員を中心に、無電柱化事業について馴染みのない方にも分かりやすく、親しみやすいよう、双方向を意識した広報を行ってきた。

## 横湯川中流域での土砂災害対策に関する施工方法の検討について

砂防課 技師 柴田 俊（北陸）

急峻かつ脆弱な地形地質の山ノ内町横湯川は、保全対象に湯田中・洪温泉郷を有しており、砂防堰堤直下には地獄谷野猿公苑があるため社会的注目度が高く、施工条件への制約が厳しいことから、現地の河床砂礫を活用した砂防ソイルセメントや、既設堰堤の改築など現場の状況に合った施工方法を検討した。

## 危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラを活用した 効果的な水位情報の発信についての取組

技術管理室 主査 太田 好宏（北陸）

須坂建設事務所管内河川に設置した基準水位局が、出水期を前にして故障し、観測不能になった際に、休止中の危機管理型水位計を移設し、暫定運用で水位を計測・情報発信した事例の紹介と、簡易型河川監視カメラを活用した「目で見てわかりやすい水位情報」の発信についての取組。